

国際学会ESREF2011参加報告

電電子H22 加生 裕也



研究概要

私の所属する大村研究室では、パワー半導体に関する研究を行っています。私の研究テーマは「Tiny-scale “stealth” current sensor to probe power semiconductor device failure」であり、パワー半導体用超小型電流センサの開発に取り組んでいます。本技術の実現により、電流測定時の回路配線の変更が不要となります。また、配線変更に伴う回路特性の変化がないため配線を通れる本来の電流を測定することが可能となります。このセンサを用いてパワー半導体の故障解析を行います。

学会概要

私はフランス(ボルドー)で開催された国際学会 22nd European Symposium on Reliability of Electronic Devices, Failure Physics and Analysis に参加しました。会場はボルドー第一大学内にある、以前教会として使用されていた石造りの建物です(写真参照)。

学会参加者数は200名程度で、地元フランスからの参加者が最も多く80名程度いました。日本からは十数名参加しており、豊田中央研究所、日立ハイテクノロジーズ、早稲田大学や名古屋大学の方々とお会いしました。

学会に投稿された論文数は全体で112件(うちInvited Paper 8件、Oral Presentation 69件、Poster Session 35件)であり、大学から投稿された論文が全体の半数程度を占めています。



学会会場 Domaine du Haut Carré

研究発表

本学会は私が初めて参加した学会であり、初めての英語での研究発表でした。

私が発表を行ったのは学会4日目の午後で最大約60名が収容できる部屋で行われました。発表時間は20分うち15分が発表、残り5分が質疑応答という形式でした。

事前にプレゼンの練習を何度も行っていたので、緊張しましたが無事に発表を終えることができました。また、質疑応答についても比較的聞き取りやすいスピードで質問して頂いたのでなんとか答えることができました。発表終了後に聴衆の方から「良いプレゼンだった。」と声をか

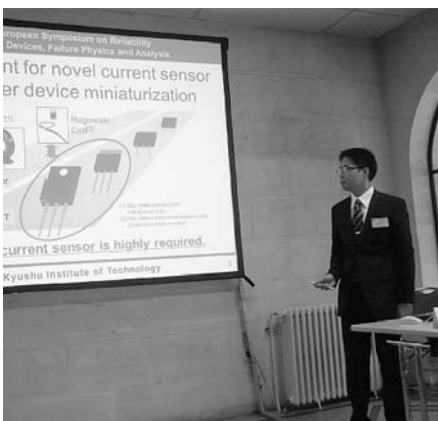
けていただけだったので、私の拙い英語でも伝わるという実感がわきました。

まとめ

今回の学会を通じて、英語でのコミュニケーションに対する苦手意識を克服できました。しかし、自分の言ったことが相手に伝わっていない場合や相手の言ったことが理解できない場合も多々あったので、今後、英語の発音の改善および語彙力の強化に取り組みます。

最後に、このたび国際学会への参加および自身の研究発表の機会を得られたのも明専会から頂いた奨学金のおかげです。心より厚く御礼申し上げます。

(田淵電機株)



発表の様子